

P.1 第28回モリサワ文字文化フォーラム「デザインからデザインまで」 | P.3 FONT COLLEGE Vol.1 | P.4 モリサワ 東京2020たより
P.7 「車いすバスケットボール」の魅力をご紹介 | P.8 教育現場のユニバーサルデザイン UDデジタル教科書体



第28回モリサワ文字文化フォーラム「デザインからデザインまで」

2020年1月22日(水)、東京2020参画プログラムとして、第28回モリサワ文字文化フォーラムが開催された。

ゲストは、「東京2020スポーツピクトグラム」制作者としても著名なグラフィックデザイナー・廣村正彰氏。

1964年の東京大会で生まれたスポーツピクトグラムの考え方を継承し、
さらに各競技の魅力を引き出すべくリノベーションされたデザインについて、
「デザインからデザインまで」をテーマにご講演いただいた。

ピクトグラムの起源 — 「誰にでもわかりやすく」

ピクトグラムは1920年代にオーストリアの哲学者であるオットー・ノイラートが考案した試みが起源とされています。識字率が低かった第一次世界大戦後につくられた経済博物館において、資料の内容を誰にでもわかりやすく伝えるため、いくつかのルールに基づいたアイコンがつけられました。こうした文字のない説明は「アイソタイプ」と呼ばれ、ピクトグラムの原点とされています。

スポーツピクトグラムが公式に使用されたのは、世界でも1964年の東京大会が初めてです。また、1960年の世界デザイン会議から1964年の東京大会、そして1970年の大阪万博と、日本のデザインを世界に知らしめることとなった一連の流れは、2020年の東京2020大会から2025年の大阪万博へと続く現代とも通じるものがあります。廣村氏には、今回の制作でもデザインというものが飛躍した当時の盛り上がりをもう一度思い起こさせるように、という思いがあったとのこと。



東京2020大会のリノベーション、 厳しい“専門家の目”

東京2020オリンピックスポーツピクトグラムは33競技50種類、東京2020パラリンピックスポーツピクトグラムは22競技23種類あります。大会のピクトグラムには各国の象徴的なモチーフを使用することが多いそうで、今回も「日本らしさ」「2020年東京」という観点から、案の軸が11種類ほど挙がりました。たとえばひらがな、あるいは鳥獣戯画、アニメのキャラクターを使えないか、など度重なる試行錯誤の末に、「1964年をリスペクトする」という案が採用されました。

ここで廣村氏は、デザインする上で定められたいくつかのルールを紹介してくれました。まずは「頭部は円形」にすること。例外はヘルメットやギアなど、それを被らないと成立しないスポーツのみとし、それ以外は全て円形で統一。次に「胴体を抜く」ということ。体のひねりや角度といった、アスリートの躍動感ある動きを表現するために、胴体を抜き、手足を強調するように見せたのだそうです。そのほか、上半身だけを描いたボクシングでは、グローブの形にこだわり、よりダイナミズムを演出。柔道では道着を着せることによってその競技の個性を明確に描いています。その競技“らしさ”を大切に、時にはルールに縛られない柔軟な視点によって、各デザインが仕上がっていききました。

「しかしそこから更に難関で、各競技団体の専門的な視点からの細かいチェックを受け、何度も修正を重ね、なんとか完成に至りました。」と廣村氏。セリングでは左右の腕の役割、馬術ではもっとも馬が綺麗に見える頭の角度、など、各競技が最も格好良く見えるポイントを描ききる必要があり、自身に馴染みのないスポーツについてはその点がとても苦労したそうです。

こうして、多くの人の目を通して出来上がった東京2020スポーツピクトグラムは、1964年のピクトグラムを踏襲しつつ、各競技の持つ躍動感や肉体の美しさがよりわかりやすく伝わるよう磨き上げられ、完成されました。

人々に寄り添うデザイン

後半は、廣村氏がこれまで手がけてきたピクトグラムの事例が紹介されました。水族館や美術館、車のショールームやカプセルホテルなど、多くの人が集まる施設内において、一目で伝わるピクトグラムの存在は重要な役割を担っています。年齢や国籍を超えたコミュニケーションを生み、人々の暮らしをより快適なものにしています。

廣村氏のデザインはシンプルで、一目で覚えられやすいような親しみやすさがあります。東京2020大会でも見る人の記憶に残り、大会でのさまざまなシーンとともに思い起こされ、長く愛され続けていくでしょう。

[FONT COLLEGE Vol.1]を開催 — 小林功二氏、カイトモヤ氏をお招きして —

収録書体が1,500を超えたMORISAWA PASSPORT。
これらの多種多様なフォントをユーザの方々に使いこなしてもらうため、
2019年12月18日(水)、TIME SHARING 秋葉原(東京)にて
MORISAWA PASSPORTユーザ限定のセミナーを開催した。



2019年12月18日(水)、MORISAWA PASSPORTユーザを対象とした[FONT COLLEGE Vol.1]セミナーを開催しました(TIME SHARING 秋葉原)。

第一部は、『MORISAWA PASSPORT基本の「き」～文字のかたち、フォントのしくみ～』と題し小林功二氏が登壇。決まったフォントを使っている人が多い現状を受け、「やわらか優雅系」の明石やしまなみ、「ぷるぷる系」のプリー桃やすすむしといった具合に、独自のフォント分類法・活用法が紹介されました。

続いて従来の分類方法では見つけにくいフォントやその使い方、定番フォントの選び方、グリフや合字といったフォントの技術的な側面などが解説され、デザインとテクノロジーの両側面からフォントを選ぶヒントが多数提案されました。

第二部は、カイトモヤ氏が東京造形大学の授業でも取り入れているワークショップ『アナログメソッドで発見する、ロゴ作りの心得』。配布されたA3の白紙の上に、さま

ざまなフォントで印刷された文字の紙を組み合わせ、オリジナルのロゴを制作します。文字をすべて切り離して再構成したり、異なるフォントを巧みに組み合わせるなど、限られた道具の中でも工夫が光る作品づくりでした。制作後はスクリーンに作品を映し、制作意図についての発表やカイト氏による講評。

最後に「ただフォントを選ぶだけがタイポグラフィではない。組み合わせ方や配置方法、対象に合わせた表現方法こそが重要」との講義があり、実際に手を動かしたことで理解がより深まっている様子でした。

セミナーの最後には『モリサワUPDATE』として、2019年秋の新書体を紹介。またリリースしたばかりの「MORISAWA PASSPORT for iPad」が関心を集めていました。

引続き会場で行われた懇親会にはモリサワの社員も参加。生で意見を交換することのできる貴重な場となりました。

東京2020オフィシャルサポーター(フォントデザイン&開発サービス)として、「東京2020公式フォント」を提供しているモリサワ。このフォントは大会の印刷物や、街中の装飾デザイン、選手に渡される表彰状などに使われ、多くの場面で皆さんの目に触れる大切な要素となる。ではなぜ、「フォントの会社」が東京2020オフィシャルサポーターになったのか、理由を紹介する。



代表取締役社長 森澤彰彦より

モリサワの歴史は、1924年に私の祖父、森澤信夫が邦写真植字機を開発したことに端を発する機械メーカーとして始まりました。いまは機械メーカーとしての役割は終え、フォントをつくるビジネスがメインになっています。

東京2020大会では、オフィシャルサポーターとして公式フォントを提供しています。これに至る経緯のひとつとして、ユニバーサルデザインに配慮した書体、UDフォントを2009年から提供していることがあげられます。UDフォントは、文字のかたちがわかりやすい、文章が読みやすい、読み間違えにくい、というコンセプトから生まれたフォントです。2016年には障害者差別解消法が施行され、多方面での合理的配慮が進められる中、情報の受け取り側に配慮してUDフォントが使われる場面も増えています。実は公式フォントも、UDフォントの知見を活かして開発したものです。

モリサワは、「文字を通じて社会に貢献する」という経営理念のもと、情報のUD化をサポートし、共生社会の実現に取り組んでいます。今後も、読みやすい文字の開発やスポーツ支援を通じ、社会に貢献していきます。



「東京2020公式フォント」の開発秘話とは？

東京2020公式フォントとして組織委員会に提供した文字は、
モリサワが過去、UDフォントの開発で培った知見を結集して開発したものだ。
今回は、その特徴や開発秘話を説明する。

●東京2020 公式フォント

TOKYO2020 JPN (和文書体)

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会
わかりやすく、読みやすく、読み間違えにくい文字 **L**

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会
わかりやすく、読みやすく、読み間違えにくい文字 **R**

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会
わかりやすく、読みやすく、読み間違えにくい文字 **DB**

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会
わかりやすく、読みやすく、読み間違えにくい文字 **B**

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会
わかりやすく、読みやすく、読み間違えにくい文字 **H**

TOKYO2020 (欧文書体)

Olympic and Paralympic Games Tokyo 2020 **L**
Olympic and Paralympic Games Tokyo 2020 **L Italic**

Olympic and Paralympic Games Tokyo 2020 **R**
Olympic and Paralympic Games Tokyo 2020 **R Italic**

Olympic and Paralympic Games Tokyo 2020 **DB**
Olympic and Paralympic Games Tokyo 2020 **DB Italic**

Olympic and Paralympic Games Tokyo 2020 **B**
Olympic and Paralympic Games Tokyo 2020 **B Italic**

Olympic and Paralympic Games Tokyo 2020 **H**
Olympic and Paralympic Games Tokyo 2020 **H Italic**

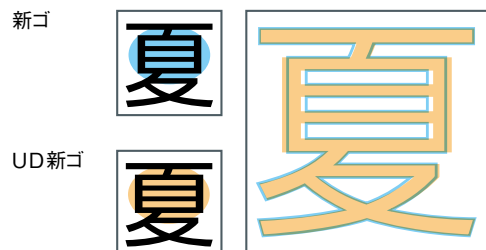
UDフォントとはユニバーサルデザインフォントの略称で、文字が「わかりやすく」、「読みやすく」、「読み間違えにくい」ことをコンセプトとしてつくったもの。年齢や障がいの有無に関わらず、どんな人でも読めるということを意識して開発しています。たとえば、老眼の方は文字がぼやけて読みづらいことも多い。そういった場合にも読みやすいように、空間を広くとることで文字がつぶれにくくなったり、濁点や半濁点を大きくして「ブ」なのか「プ」なのかのわかりやすいようにしたりするほか、また、なるべく手書きの形に近づけることで文字を認識しやすくする工夫もしています。

東京2020公式フォントも同様の考えに基づいて開発されています。大会時は、世界中から多種多様な方が日本を訪れます。そのため、組織委員会とのやりとりの中でも、ユニバーサルデザインの考え方を取り入れた文字が最適だという結論になったからです。

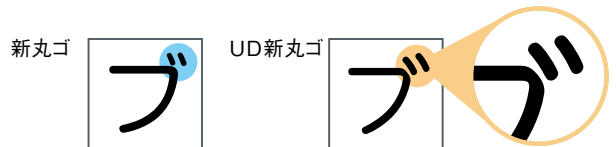
開発の中心となったのは欧文パートです。アメリカにいるモリサワグループのネイティブデザイナーの声も反映しながら細かい調整を重ねていき、やっと完成させることができました。

UDフォントの特長

▼空間を広くとるとつぶれにくく、見やすくなります。



▼濁点・半濁点を大きくして、区別をつけやすくしています。



▼はなれが明確になると、シルエットの似た文字を判別しやすくなります。



大会に向け奮闘中! 出向社員をご紹介します

公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会に社員を派遣しているモリサワ。前回は引き続き、今回は、同委員会に出向している佐藤太志郎からのレポートを紹介する。



私は、大会の総合指令室にあたるゲームズ・デリバリー室で、各会場のスタッフの運営能力を向上させるために、演習計画策定や実践訓練指導を担当しています。

モリサワでは管理部門にて主に新卒採用や人事労務関係の業務を担当し、新入社員の研修や育成等に携わってきた経験はありましたが、オリンピックやパラリンピックという今までと全く異なる世界での業務はほぼ全てが未知のものでした。経験が通用しないことが多く、いきなり不安との戦いでしたが、私は「この経験はプラスになる」と前向きに捉え、まずは環境に慣れ人脈を広げることを優先的に行うことで、今ではいろいろな方と関わられるようになりました。組織委員会はさまざまなバックグラウンドを持つ職員で構成されているため、とてもいい刺激をもらっています。

さて、大会を成功させるためには入念な運営計画をつくるのが大切です。しかし、スタッフがその計画通りに動くかどうかはまた別の話です。オリンピックやパラリンピックは複数の競技を複数の会場で同時に行うため、大会当日はいろいろな事象やトラブルが同時多発的に起きることが予想されます。また、そもそも自治体や一般企業の出向者で構成されている組織委員会の職員のほとんどがスポーツイベントの運営経験がありません。さらに、オリンピ

ックやパラリンピック特有のルールも存在するため、こういうことが起きたらまずはどうするか、誰とどう連携してどのように対応するかなど、事細かなケースを想定した演習を繰り返しアウトプットすることが重要になります。

私はそのケーススタディを行うためのシナリオづくりや行程管理、そこで出た課題マネジメントなどの業務を行っています。課題自体がとても多く、会場や競技によってチームの色や雰囲気、計画や進め方も違うため、その会場の現状に応じて進めていくことに難しさを感じています。

私自身まだ経験が浅いため、競技のことや会場のこと、各種用語や手順など、日々覚えることや考えることが尽きません。大変さもありますが、配属当初は全く話にもついていけなかったことを思うと、いまでは会場チームから頼られることも多くなり、自分自身の成長も感じます。また、会場チームがまさに「One Team」の意識で私たちが作り提案した演習をこなしている姿を見ると、とてもやりがいを感じます。

本大会では、平常時の運営はもちろんのこと、有事の際に各スタッフがこの訓練や演習を活かしてオペレーションできれば大会の成功に導けると信じていますし、その喜びや達成感を味わえる日がいまからとても楽しみです。

モリサワは“オフィシャルサポーター”になりました!

「車いすバスケットボール」の魅力をご紹介

モリサワは、2019年11月に一般社団法人日本車いすバスケットボール連盟と
オフィシャルサポーター契約を締結した。

世界中で多くの人を惹きつけて止まない車いすバスケットボール。今回は、その競技の魅力について紹介する。

1940年代にアメリカで生まれた車いすバスケットボール。日本へは1960年に紹介され、障がい者スポーツの人気競技の一つとなっています。

車いすバスケットボールの特徴的な点として、選手は、障がいの程度に応じ持ち点を与えられるため、点数を考慮しながらチームを編成する必要があります。また、プレイは車いすに乗ってするものの、ゴールの高さや出場人数などルールは一般のバスケットボールとほぼ同じ。選手は、専用につくられたハの字型の車いすを自由自在に操り、相手をかわしつつゴールを目指します。コートを縦横無尽に駆け回り、車いすが激しくぶつかる様子は迫力満点。スピードや俊敏性、持久力に加え、一瞬の判断で車いすを操作する高い技術力も求められます。

選手たちの華麗なプレイが楽しめる試合や、車いすバスケットボールの体験会も随時開催しています。詳しくは、一般社団法人日本車いすバスケットボール連盟の公式サイトからご確認いただけます。

モリサワは、誰もが暮らしやすい共生社会を実現する活動の一環として、2015年から公益財団法人日本障がい者スポーツ協会(JPSA)のオフィシャルパートナーとして支援しています。今後は、国際大会で活躍する車いすバスケットボール選手のサポートに加え、国内での競技のさらなる普及と発展を支援します。



Photo by JWBF/X-1



Photo by JWBF/X-1

日本車いすバスケットボール連盟 玉川敏彦会長より



この度はモリサワ様とのご縁をいただき大変喜ばしく思います。

私どもでは、さまざまなイベントや大会を開催し、車いすバスケットボールの普及・発展に努めております。

間近で車いすバスケットを観戦し、生の迫力を体感しにぜひ会場へお越しください。

今後も全国各地で開催を予定しておりますので、みなさまにご参加いただき、車いすバスケットボールの魅力に触れ、選手たちを盛り上げていただければと考えております。

“車いすバスケットボール”という強みをモリサワ様の文字を通して、伝え、広めていけるよう努力していく所存でございます。

今後とも、ご支援ご声援のほどよろしくお願い申し上げます。

UDデジタル教科書体と英語学習

「UDデジタル教科書体」がWindowsに初めて標準搭載されてから2年。標準搭載されている以外にもラインナップが充実しています。その一つがUDデジタル教科書体の欧文シリーズです。

2020年から小学校で英語が外国語科の教科となり、小学5年生からアルファベットの読み書き指導が始まります。今まで、子どもたちが初めて習うアルファベットの形状は丸と縦棒で構成される「Ball & Stick体」でしたが、今後、文部科学省配布の教材に習い、多くの小学英語の教科書で、手書きの要素を取り入れた形状に変わります。(図①)

もともとBall & Stick体は、英語を学習する多様な子どもたちに最適な文字とは言えませんでした。たとえば、Ball & Stick体の「a」は、ロービジョンの子どもたちには「o」と読み間違いやすく、書くときは2画になるため丸と棒の部分を適切な位置で接して書くのが難しい。形状が反転して見える子は、「b」「d」「p」「q」を文字の向きだけで判別することが難しく、混乱してしまいます。形をうまく捉えられ

ない子は「k」「K」のように複雑な形状を書くことに高いハードルがあります。

そんな子どもたちの困りごとを解決するため、「UDデジタル教科書体」のラインナップとして、和文の四つのウエイト(書体の黒み)に合わせて使える新しい欧文「正体欧文(UD Digikyo Latin)」と「イタリック体欧文(UD Digikyo Italic)」をつくりました。(図②)

また、文部科学省の教材では基準の4線が5:9:5の比率だったため、「大文字の「E」や「P」「H」が線に沿って書けず教えるにくい」という先生や指導者の方からの声がありました。それを受け、子どもたちが大文字も線に沿って学べる5:6:5の比率に調整した「書き学習用欧文(UD Digikyo Writing)」もラインナップに加えました。(図③)

これらの欧文は障害の有無を問わず、幅広い子どもたちの書き学習に有効であるため、「UDデジタル教科書体」の和文とともに、2020年からの教科書や教材、小学辞典などへと採用が広がっています。

① Ball & Stick体から手書きに近い形状へ

手の動きを重視した形状にする

ab ▶ ab²

鏡文字に間違えないように左右対称の形状を避ける

bdpq ▶ bdpq

なるべく少ない画数で書けるようにする

KR ▶ KR

② UDデジタル教科書体(4ウエイト)

正体欧文
(UD Digikyo Latin)

English18

English18

English18

English18

イタリック体欧文
(UD Digikyo Italic)

English18

English18

English18

English18

R

M

B

H

③ 正体欧文と書き学習用欧文

正体欧文
(UD Digikyo Latin)

5 EPH1
9
5

書き学習用欧文
(UD Digikyo Writing)

5 EPH1
6
5

* | (縦線のキー: Shift+¥)で4線(三)を入力できる

MORISAWA PASSPORT

豊富な書体バリエーションを常に最新のフォント環境で
利用できるライセンス製品です。



フォント男子!



業界初!?フォント擬人化コメディ漫画開幕! Webコミック
サイト「ヤングエースUP」にて全話無料連載中!



お問合せ・ご要望は

経営戦略部広報宣伝課 E-mail: pr@morisawa.co.jp

Webサイトは

www.morisawa.co.jp/about/morisawa-news



次号は 2020年6月発行 です

●今号のフォント

本文: UD新ゴNT (AP版) L

見出し: 見出ゴMB31、リュウミン B-KL、
UD新ゴ(AP版) DB、フォーク B、
UDデジタル教科書体 M / B

モリサワ

株式会社モリサワ

本社 〒556-0012 大阪市浪速区敷津東2-6-25 Tel:06-6649-2151
東京本社 〒162-0822 東京都新宿区下宮比町2-27 Tel:03-3267-1231
仙台支店 〒984-0051 仙台市若林区新寺1-3-8 Tel:022-296-0421
名古屋支店 〒460-0002 名古屋市中区丸ノ内1-5-10 Tel:052-201-2341

札幌営業所 〒001-0010 札幌市北区北十条西2-6 サウスシティ2F Tel:011-700-0112
福岡営業所 〒812-0013 福岡市博多区博多駅東1-3-25 Tel:092-411-5875
鹿児島営業所 〒890-0051 鹿児島市高麗町11-3 下田平ビル2F Tel:099-252-2255